



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第17号 2021年8月発行



このプロジェクトは5年間（2017-2022）の JICA による技術協力プロジェクトで、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、サイヤブリ県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及び GAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

1. 殺菌剤「重曹水溶液」、及び有機肥料「アミノ酸液肥」の製造・使用について On the Job Training (OJT) を実施。

8月5日（木）にカウンターパート機関である農業局クリーン農業基準センター（CASC）の圃場内にて、同職員を対象に殺菌剤「重曹水溶液」並びに有機肥料「アミノ酸液肥」の製造・使用について、OJT を実施しました。

現在、ラオスでは本格的な雨季のシーズンを迎えており、雨天や曇天時など高温多湿下では、細菌やバクテリアなどの増殖に伴う病気の蔓延が懸念されています。植物体の表面にこの「重曹水溶液」を葉面散布し、付着する病原菌を急激にアルカリ化させることで高い死滅効果が期待されます。

また、雨天や曇天時は太陽光が減少し光合成の働きが悪くなることから、植物体内における窒素の転流（亜硝酸→アンモニア→アミド→アミノ酸→タンパク質）が阻害されます。しかし、「アミノ酸液肥」を葉面散布又は土壌灌水することで、窒素の転流が短縮（アミノ酸→タンパク質への流れのみ）されることで、窒素成分が容易に吸収されます。



（写真）有機肥料「アミノ酸液肥」について学ぶ CASC 職員

今後 OJT を通じて学んだ栽培技術については、Organic Agriculture (OA) Group を対象に CASC を通じて OJT を実施する予定となっております、OA

Technical Manual として CASC の YouTube チャンネルにて配信する予定となっております。

（写真）実際に「アミノ酸液肥」をトマトへ葉面散布する CASC 職員



2. グリーンハウス(GH)の建設方法について On the Job Training (OJT) を実施

8月18日（水）に当プロジェクトはカウンターパート機関である CASC、首都ビエンチャン農林局（PAFO）、首都ビエンチャンの郡農林事務所（DAFO）の3機関と協力して、グリーンハウス（GH）の建設方法について OJT を実施しました。



（写真）指導する CASC 職員サンワン氏（中央左）と PAFO 副課長カンケオ氏（中央右）

今回 OJT を受けた生産農家は首都ビエンチャンのシェンダー村で有機農業グループに所属するシダ・ポンドウンシー氏です。シダ氏は同ニュースレター13号（2021年3月発行）で紹介しました「GH 導入農家の選定調査」によって選定された25名のうちの一人です（プロジェクト支援による一部資材補助の対象者）。COVID-19 による首都のロックダウンを受け、資材輸送ができず建設遅延といった問題が生じましたが、無事に OJT を実施することができまし

た。プロジェクトでは引き続き雨季栽培における生産課題について取り組んで参ります。

今回実施した GH の建設方法については、Organic Agriculture (OA) Technical Manual として CASC の YouTube チャンネルで配信予定となっておりますので是非ご覧ください。



(写真) 左から 4 番目：シダ・ポンドゥンシー氏

3. OA 農産物の硝酸イオン濃度検査の実施

農産物の硝酸イオン濃度は、農産物の品質を示す一つの指標として知られています。硝酸イオン濃度の増加は肥料のやりすぎが一つの原因となります。硝酸イオン濃度の高い農作物は苦みやえぐみが強くなり、また、糖度、ビタミンCが低下する傾向にあります。プロジェクトでは7月28日に首都ビエンチャン、7月31日にシェンクワン県、8月18日にルアンパバーン県でそれぞれOAマーケットの農産物に対して硝酸イオン濃度検査を実施しました。サンプルとなる農産物に突き刺すだけで硝酸イオン濃度が測定できる簡易測定デバイスを使用し、県郡職員が中心となって検査を実施しました。

例えばシェンクワン県では9種の農産物（エシャロット、カボチャ、トマト、チョイサム、ハクサイ、アボガド、ナシ、ドラゴンフルーツ、ヒラタケ）15サンプルについて検査を実施し、すべてのサンプルが簡易測定デバイスで、安全な硝酸イオン濃度レベルと判断されました。各県での検査の様子は



(写真) シェンクワン県での硝酸イオン濃度検査の様子

Facebook を通じて動画で発信する予定ですので、確認してみてください。

0A 現場からの声

このコーナーでは、対象県で有機農業推進に尽力しているキーパーソンに焦点を当て、発信していません。今号はシェンクワン県ペーク郡の有機農業協同組合（農協）を取り上げます。

ペーク郡では2009年に5村25世帯が有機農業を開始しました。その後、県内の有機農業が社会的に認知されるようになり、メンバー数も年々増加しました。2018年にグループは農協となり、現在は郡内の30村以上の165世帯のメンバーで構成されています。週に2回開設されているOAマーケットは多くの人でにぎわい、また郡内の数件のレストランが有機農協から購入した有機野菜を取り扱っています。



(写真) 左から県職員、OA農協リーダー、郡職員2名

プロジェクトの支援で、雨よけ栽培を導入したことにより、雨期に多くの作物が栽培できるようになりました。メンバーの経済状況は様々です。自己投資して雨よけ栽培を始めることができるメンバーがいる一方で、資金が不足して常時OAマーケットに野菜を供給するだけの生産力がないメンバーもいます。

OAマーケットの開設や研修後のフォローアップ等で県郡の職員の有機農協の活動を献身的にサポートしています。有機農協の今後の予定としては、①さらなるメンバーの増加、②新たなOAマーケットの開設、及び③他県への農産物の販売等を検討しています。

発行元：JICA クリーン農業開発プロジェクト

Clean Agriculture Development Project (CADP)

Email: cadp.lao.info2@gmail.com

Tel : +856-21 417 681



もっとクリーン農産物を食べよう！

